



ヒロセ電機株式会社

2021年3月期 第1四半期決算説明会

2020年8月4日

イベント概要

[企業名]	ヒロセ電機株式会社		
[イベント種類]	決算説明会		
[イベント名]	2021年3月期 第1四半期決算説明会		
[決算期]	2020年度 第1四半期		
[日程]	2020年8月4日		
[時間]	10:30 - 11:34 (合計：64分、登壇：35分、質疑応答：29分)		
[開催場所]	インターネット配信		
[登壇者]	2名		
	取締役 管理本部長		福本 広志 (以下、福本)
	管理本部 IR室長		須崎 英雄 (以下、須崎)

登壇

須崎：それでは定刻になりましたので、ただ今より 2021 年 3 月期第 1 四半期、ヒロセ電機の決算説明会を開会させていただきます。

本日はご参加いただき、ありがとうございます。進行を務めます、IR 室の須崎です。よろしくお願いたします。前回 5 月と同様に、今回もウェブでの説明会になります。

説明資料ですけれども、短信と、決算説明会の英語資料を私どものヒロセ電機の IR ページに掲載しておりますので、ご利用いただければと思います。

本日の進行ですが、最初に取り締役管理本部長の福本より、ご挨拶と全体動向の説明をさせていただきます。それに引き続きまして、私、須崎より、資料に従ってご説明申し上げます。こちらの説明後に質問をお受けいたします。閉会は 11 時半の予定ですので、進行のご協力をお願いいたします。

それでは福本に代わります。

福本：おはようございます。ヒロセ電機、福本でございます。今回も説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。

詳細な説明は須崎からさせていただきますけれども、冒頭に私から少しだけお話しさせていただきますと思います。

業績サマリー (2020年度 第1四半期 2020年4月～6月)

- 2020年度第1四半期は、世界的なコロナ禍で経済活動が停滞傾向の中、売上 前年比 **3.0%減**。
- 営業利益は前年度郡山水害の保険金(その他収益15億円)含み、前年比 **10.4%増** となりました。

(金額：億円)

	2019年度1Q (2019.4-6月)	2019年度4Q (2020.1-3月)	2020年度1Q (2020.4-6月)	前年同期比 (2020.1Q/2019.1Q)	前四半期比 (2020.1Q/2019.4Q)
受注	300.8	319.3	277.4	-7.8%	-13.1%
売上	282.3	302.3	274.0	-3.0%	-9.4%
営業利益	53.4	41.5	59.0	10.4%	42.1%
営業利益率	18.9%	13.7%	21.5%	+2.6pt	+7.8pt

3

3 ページをお開きいただけますでしょうか。

まずこの第1四半期ですけれども、売上は274億円、営業利益が59億円、営業利益率は21.5%ということでございました。四半期で20%以上の営業利益は、実は2018年度の第3四半期、このとき23.4%だったんですけれども、それ以来ということでございます。

数字だけ見ますと喜ばしいことのようにも見えますけれども、中身を見ますとここに書いてありますとおり、前年度の郡山水害の受取保険金、15億円、これが入っておりますので、これを除くと44億円の営業利益、利益率は16.1%ということで、まだまだわれわれとしては目指すところに届いていない、努力が要る段階という認識をしております。

またこの結果を踏まえまして、上期、ならびに年間予想でございますけれども、今回は5月28日に公表した数字を据え置きとさせていただきます。

特に上期のところ、これは売上500億円、営業利益85億円が公表値でございます。これを単純に逆算すると、2Qは相当売上も減るし、利益も減るという話になるかと思うんですけれども、会社としてはぜひこの上期の公表値、これを達成して、さらに上を目指したいと思っております。

今回据え置いたのは、第1四半期で産機向けを中心に一部、まとめ発注とか売上をお客様からいただいている部分があると思われる。8月以降の反動といったものをまだ読み切れていないということで、据え置きをさせていただいております。

それと、これから詳細はIR室長の須崎から説明させていただきますが、今回の説明会資料、数字関係に加えまして、新型コロナウイルス感染症の影響および取り組み。さらには、日本電子回路工業会の奨励賞をいただいた製品のご紹介もさせていただきたいと思っております。

なお、今回から、より皆様に分かりやすい情報提供を図るべく、説明会資料の構成や表記について手を入れております。まだこれは道半ばと思っておりますけれども、この辺りも後日、皆様からお気づきの点等をいただければありがたく存じます。

また今回もわれわれ、ヒロセのホームページのIRのところに、決算短信の英語版、これを同時に開示しておりますので、ご活用いただければありがたく存じます。

それでは須崎さん、お願いします。

須崎：それでは資料に基づきまして、須崎より説明申し上げます。



売上・営業利益推移 (2019年度1Q～2020年度1Q / ヒロセ連結ベース)



4

それでは、その次の4ページをご覧ください。売上と営業利益の推移になります。

先ほどのとおり、郡山の水害の保険金を含んでおりまして、それから前年の四半期のところは土地の売却益等が入っております。この辺りは補足の資料を用意しておりますので、そちらで実力的な推移を見ていただけるように後ほど説明申し上げます。



2020年度 第1四半期 連結決算概要

(金額：億円)					
	2019年度1Q (2019/6月期)	2020年度1Q (2020/6月期)	増減額 (対前年同期比)	増減比 (対前年同期比)	
売上高	282.3	274.0	-8.3	-3.0%	
売上原価率	57.5%	58.0%	+0.5		
販売・管理費比率	26.7%	26.0%	-0.7		
営業利益	53.4	59.0	+5.6	10.4%	
営業利益率	18.9%	21.5%	+2.6		
税引前利益	56.7	60.9	+4.2	7.4%	
税引前利益率	20.1%	22.2%	+2.1		
当期利益	40.7	44.2	+3.5	8.6%	
当期利益率	14.4%	16.1%	+1.7		
総資産残高	3,421.0	3,436.4			
自己資本比率	88.8%	89.4%			
1株当たり当期利益	111.56円	121.78円			
			2019年度 1Q	2020年度 1Q	
			1US\$	109.90円	107.62円
			1€	123.49円	118.48円
			100ウォン	9.43円	8.83円

5

続きまして、5 ページをお願いいたします。決算の概要につきまして、表にまとめてございます。

売上は先ほどのとおり、第1クォーター、274億円でした。マイナス8.3億円の対前年の減収となっております。比率にしてマイナス3.0%です。営業利益が59億円で、営業利益率が21.5%。前年に比べまして5.6億円の増益、比率にしましてプラス10.4%という結果でした。

税引前利益が60.9億円、当期利益が44.2億円。総資産残高、これは後ほどBSを見ていただきますけれども、3,436.4億円、自己資本比率が89.4%、1株当たり利益が121.78円という結果でございました。

為替の実績としましては第1クォーター、ドル、ユーロ、ウォンとも、全て昨年に比べまして円高になりました。1ドル当たり107.62円。1ユーロ118.48円。100ウォン当たり8.83円という実績でありました。

2020年度 第1四半期 対前年主要増減

売上高	売上高 8.3億円 減 (282.3億円 → 274.0億円)	ヒロセ単体 : +11.2億円 子会社 : -19.5億円
売上原価率	売上原価率 0.5pt 悪化 (57.5% → 58.0%)	仕入原価費率 : 38.4% → 39.2% 減価償却費率 : 10.7% → 11.9%
販売・管理費比率	販売・管理費比率 0.7pt 良化 (26.7% → 26.0%)	75.5億円 → 71.3 億円 (4.2億円 減少)
金融収益・費用	金融収益・費用 1.4億円 悪化 (+3.4億円 → +2.0億円)	

6

続きまして6ページをお願いいたします。対前年の主要な増減をピックアップした表になっております。

売上高、先ほどのとおり8.3億円の減ですけれども、単体側がプラス11.2億円、子会社側がマイナス19.5億円という結果でありました。売上原価は0.5ポイントの悪化、主な要因としましては減価償却費の比率、こちらが上がっております。こちらはある意味、計画的に投資を進めておりますので、予定どおりではあります。

それから販管費率は0.7ポイントの良化でございます。金額にして昨年対比4.2億円の減少です。こちらはコロナでの活動制限が第1クォーターはありましたので、費用が減少した結果というところですが、コスト削減といういい方が正しいのかどうかというところはありませんけれども、結果としてこういう数字になっております。

それから金融収益・費用に関しましては、1.4億円の悪化というところで、為替等による影響を含んでおります。

2020年度 第1四半期 対前年同期 変動分析

(金額：億円)

	売上	営業利益	営業利益率	税前利益	税前利益率
2019年度 1Q実績	282.3	53.4	18.9%	56.7	20.1%
為替影響	-6.3	-3.6		-4.2	
減価償却費増		-2.9		-2.9	
人件費減		2.8		2.8	
物量減	-2.1	-0.8		-0.8	
土地売却益		-8.4		-8.4	
保険金収入		15.0		15.0	
旅費・海外渡航費減		2.5		2.5	
その他		1.1		0.3	
変動額計	-8.3	5.6		4.2	
2020年度 1Q実績	274.0	59.0	21.5%	60.9	22.2%

7

続きまして7ページをご覧ください。変動分析をしたものです。前年の1Qに対して、今回の1Qの変動の要因を分析しております。

為替の影響、先ほどのとおり円高傾向ですので、売上・利益ともマイナスとなっております。売上が6.3億円、営業利益が3.6億円、税前利益で4.2億円のマイナスとなっております。償却費増が2.9億円ございました。

それから販管費等も含めてですけれども、人件費が減少というところで2.8億円の増益側にあります。それから一時的な費用としまして、昨年度の第1クォーター、土地の売却益が入っておりますので、ここが8.4億円。それから今期の第1クォーター、保険金収入が先ほどのとおり入っておりますので、これが15億円ございます。

旅費・海外渡航費の減少、これは活動ができないというところで、いわゆる出張旅費が減ったところで、2.5億円ございます。

変動の要素全て合わせまして、売上でマイナス8.3億円、利益側でプラス5.6億円、営業利益で5.6億円、税前利益で4.2億円という差額となっております。

一時的要因を除いた場合の営業利益推移 (2019年度1Q~2020年度1Q)



8

続きまして8ページをご覧ください。一時的要因を除いた場合の営業利益を見ていただく、補足的な資料であります。

19年度の第1クォーターは、先ほどのとおり土地の売却益が入っておりますので、実質的な営業利益としては、45億円となります。それから今期、この20年度の第1クォーターとしては、先ほどのとおり、郡山の水害保険金の補填がありますので、これを除くと44億円となります。季節性を除くとあまり大きな変化は出ていないというか、ビジネス自体のかたちはあまり変わっていない結果が見えると思います。

連結貸借対照表

(金額：億円)					
	科目	2020/3末	2020/6末	増減額	備考
資 産	現金及び 現金同等物	505.6	525.4	19.8	定期預金満期、他
	営業債権及び その他の債権	304.4	294.6	-9.9	
	棚卸資産	145.1	163.5	18.4	海外販社での在庫積上げ増
	その他金融資産	1,706.8	1,703.4	-3.4	
	有形固定資産	615.4	615.4	0.0	
	使用権資産	44.8	43.3	-1.5	
	その他	104.3	90.8	-13.4	
	合計	3,426.4	3,436.4	9.9	
	現預金合計	1,674.5	1,682.8	8.2	9

続きまして9ページをご覧ください。こちらはBSになります。

営業債権が減少しておりますけれども、これは売掛金減少での債権ダウンによるものです。棚卸資産が増加しておりますけれども、海外販社での在庫の積上げ、これは計画的なところがありまして、それプラス一部で作り込み等をしておりますので、棚卸資産が増加しております。

連結貸借対照表

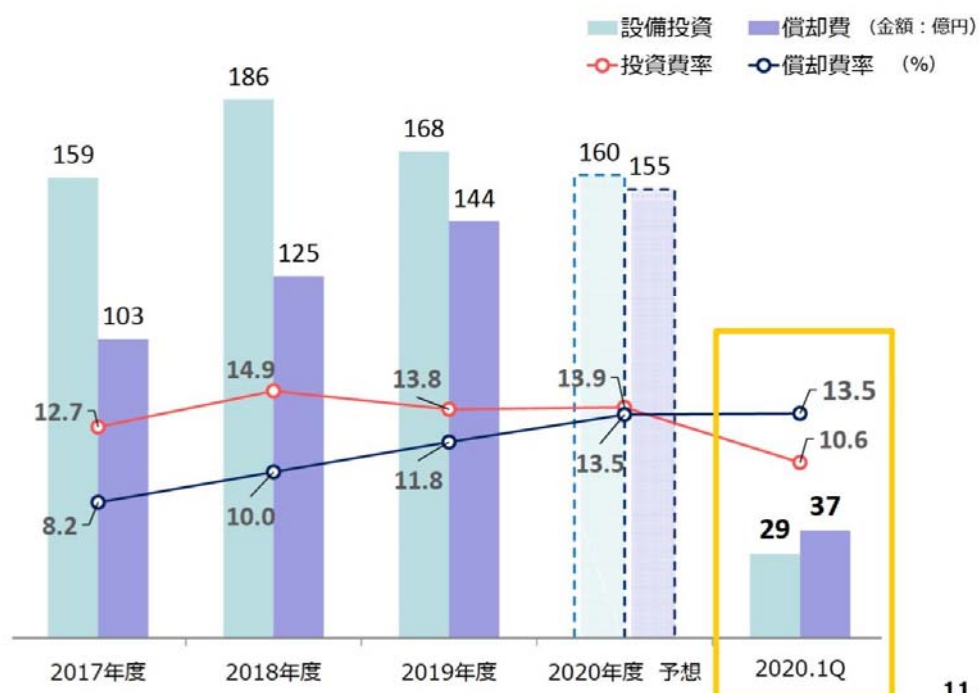
	科目	2020/3末	2020/6末	増減額	備考
負債	支払債務及び その他の債務	167.5	177.5	10.1	
	リース負債	44.9	43.4	-1.5	
	未払法人税	29.6	24.2	-5.5	
	その他	123.0	118.7	-4.3	
	合計	365.0	363.8	-1.2	
純資産	資本金及び 資本剰余金	207.0	206.9	-0.1	
	利益剰余金	3,083.4	3,060.3	-23.1	自己株式への振替
	自己株式	-244.6	-220.8	23.8	自己株式消却
	その他	15.6	26.0	10.4	
	合計	3,061.4	3,072.5	11.1	
	負債及び純資産合計	3,426.4	3,436.4	9.9	

10

続きまして 10 ページをご覧ください。負債と資本の部になります。

自己株のところでありませけれども、6月に20.5万株を消却しておりますので、それがこの差額、23.8億円の増減額として出ております。

設備投資・償却費 推移 (連結ベース)



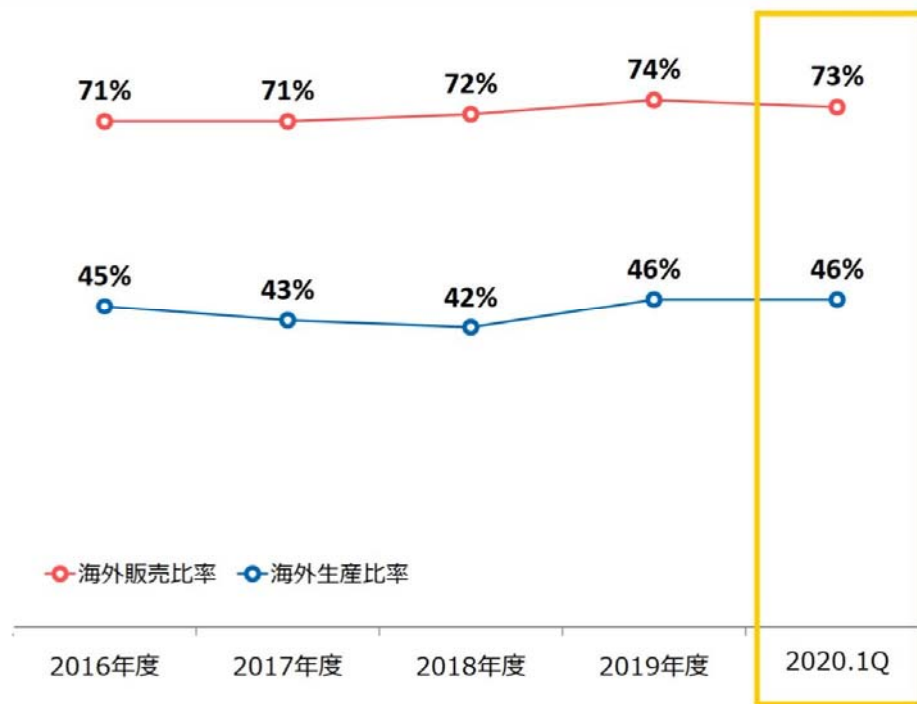
11

続きまして 11 ページをご覧ください。設備投資と償却費の推移になります。

第 1 クォーターの実績としましては、投資額は 29 億円、償却費が 37 億円という結果でありました。償却費は予定どおりなんですけれども、設備投資額はやはり 4 月から 5 月でリモートワークを実行したというところで、いわゆる現場レベルでの設備投資が弱かったという印象でございます。

それから表示はしておりませんが、第 1 四半期の R&D 費用は 25 億円という結果でありました。こちら、やはり年初計画していたよりも少ない第 1 クォーターの着地だという認識です。年間の R&D 費用、120 億円の予想値は今のところは変更はございません。

海外生産比率・販売比率

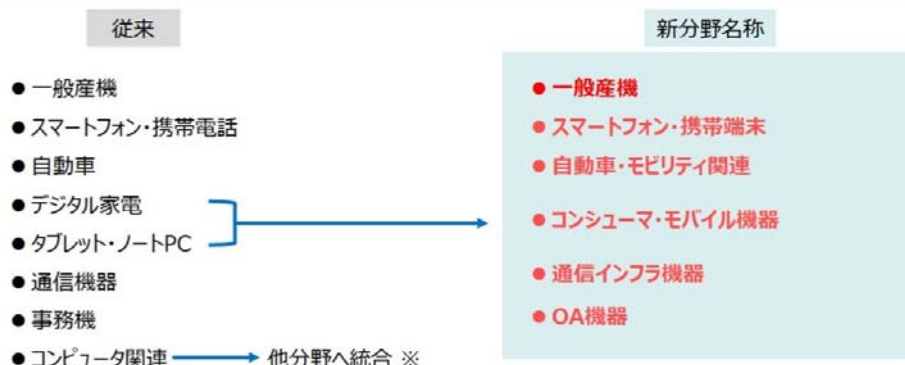


12

続きまして 12 ページをご覧ください。海外生産と販売の比率であります。

販売比率が 1 ポイント落ちておりますけれども、これはスマホの構成比が減少した影響と見ております。

コネクタ用途別売上 区分見直しと名称変更について



■ 今年度より用途別売上実績の区分見直しと名称変更をいたしました。

これまで売上高を指数表示していたものを実額(億円単位)に変更いたします。

比較的近い機器分類を統合し、動向をわかりやすくいたします。

(但し、用途別の区分は共通部品として利用される場合、概算での集計になりますため概数であることには変わりありませんので、ご了承お願い致します。)

※ 従来の「コンピュータ関連」は、「金融端末等 (一般産機)」「PC関連等 (コンシューマ・モバイル機器)」「データセンター関連 (通信インフラ機器)」「プリンタ(OA機器)」に分割、各分野へ統合いたしました。

13

続きまして 13 ページです。ここからは、用途別の資料になります。冒頭、福本のほうから用途別、資料の見直しをしていると申し上げた内容に関連するところであります。

用途別の売上構成比や伸び率等を従来お知らせしておりましたけれども、やや分かりにくいところもあって、今回、資料を刷新しております。

まず一つは、実額表示に変更いたしました。億円単位の実額表示にしております。後ほど補足資料で、昨年度の実績も併せて用意しております。

それと、一部、分野の統合を行っております。デジタル家電と従来申し上げていたところと、タブレット・ノート PC と呼んでいるところは、私どもの商品でいいますとマイクロコネクタが中心で、品物も同様のものが出ております。そのため、コンシューマ・モバイル機器という名称に変更して、統合いたしました。

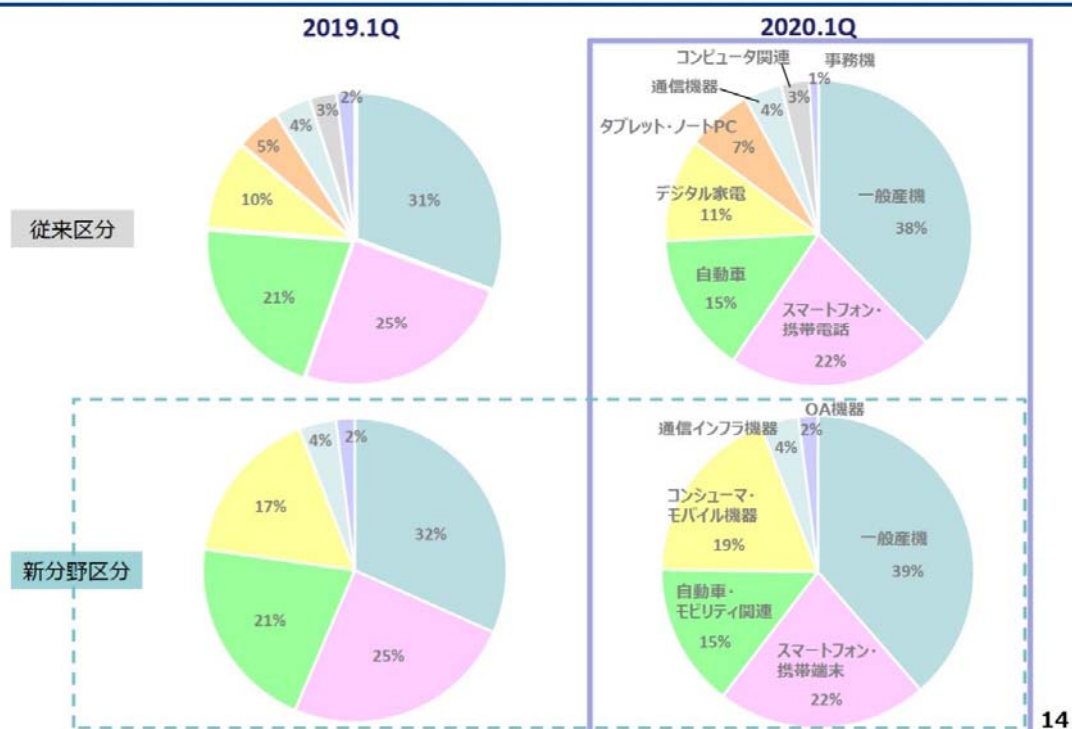
それからコンピュータ関連という分野で、約 3%ぐらい実績がずっと構成比があったものなんですけれども、これはほかの分野に統合しました。製品群が多岐にわたって、コンピュータ関連としての特徴ということ自体が、あまり表示できていなかったためです。また、コンシューマ関係、産機

関係のところの品物用途を分けまして、コンシューマ、通信インフラ、一般産機、OA 機器という名称に統合させていただきました。

また、この辺りで分からないところがありましたら、今日でもいいですし、後ほどでもまた質問いただければ、それに対して回答させていただく予定にしています。



コネクタ用途別売上構成比（概数）



14

続きまして 14 ページをご覧ください。こちらがいつも出しています分野別の構成比ですが、今回は従来区分と、それから新区分の両方を出しております。ぱっと見た目、そんなに変わらないなというところで、大きな判断の変更にはならないのではないかと考えています。

コンシューマ・モバイル機器を従来のデジタル家電と PC を足したものと見ていただくと、1~2 ポイントは数字が構成比変わりますけれども、大体似たようなかたちになると思っています。

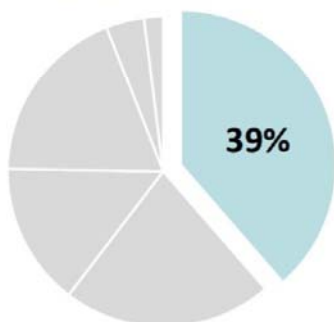
今年度 1Q の特徴としましては、一般産機向けの比率が構成比が上がりまして、自動車の構成比が下がったのが特徴的であります。こちらはそれぞれの機器別の推移を、この後のページで用意しておりますので、そちらでご説明申し上げます。

分野別売上 一般産機

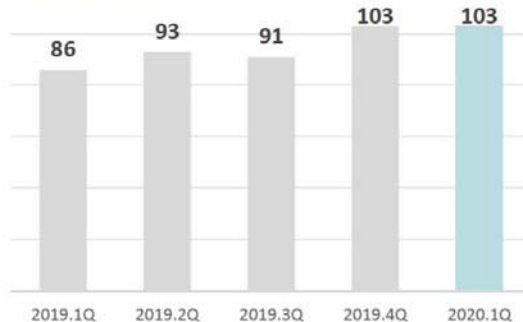
(金額：億円)

	2019年度1Q	2019年度4Q	2020年度1Q	前年同期比	前四半期比
売上高	86	103	103	20%	0%

● 構成比



● 四半期別売上推移



- 前期（2019.4Q）に続き、一部まとめ発注を含んでいる。
- 今後の回復傾向には不透明感がある。

15

それでは続いて15ページをお願いします。こちらは分野別のそれぞれに対しましての推移を表したもので、まず最初が一般産機向けであります。

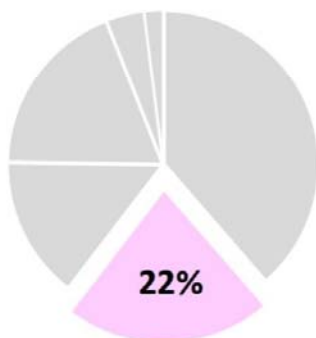
構成比が39%と、一番比率が高いところで、前四半期に続きまして103億円と、QonQでは横ばいとなっております。一部まとめ発注を含んでいるところもありまして、今後の回復傾向は、依然として不透明感を持っていると考えております。

分野別売上 スマートフォン・携帯端末

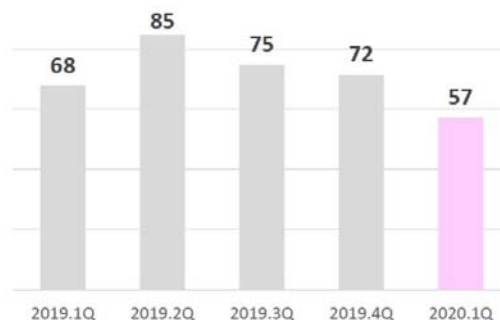
(金額：億円)

	2019年度1Q	2019年度4Q	2020年度1Q	前年同期比	前四半期比
売上高	68	72	57	-16%	-21%

● 構成比



● 四半期別推移



- スマホ・携帯端末向け売上は、2020.1Qで減少したが、一部在庫調整も含む結果。今後も5G新機種への期待もあり高水準で推移すると思われる。

16

続きまして 16 ページです。スマートフォン・携帯端末向けです。

ここは、この第 1 クォーター、57 億円と前年同期比でマイナス 16%、前四半期比でマイナス 21% とダウンしておりますけれども。ある意味、ここはこの前の期の 2019 年度の第 4 クォーター、ここがあまり下がっていなかったという、ちょっと従来とは違う季節性を 2020 年は持ったというところ。ある意味この 4Q と 1Q を足した平均値という見方をすると、全体数量としては例年とそんなに変わらないという見方もできます。

そのため、この第 1 クォーターのところは一部、在庫調整みたいなものを含んだ結果という捉え方をしています。

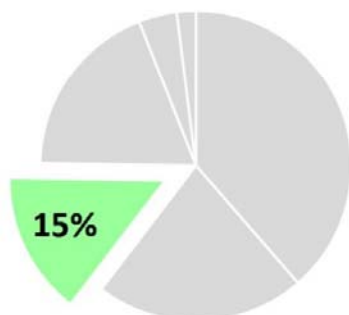
今後、5G の新機種への期待もあるので、1Q から 2Q のところはある程度、また戻って来て、高水準が今後推移していくと考えております。

分野別売上 自動車・モビリティ関連

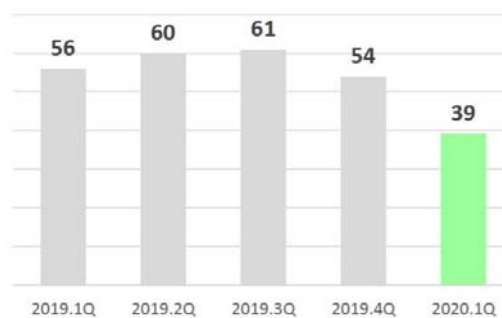
(金額：億円)

	2019年度1Q	2019年度4Q	2020年度1Q	前年同期比	前四半期比
売上高	56	54	39	-30%	-28%

● 構成比



● 四半期別推移



- 自動車市場向けは、前四半期（2019.4Q）に続き、減少傾向が続いている。

17

続きまして 17 ページになります。自動車・モビリティ関連です。

こちらは、対前年同期比でマイナス 30%、対前四半期比でマイナス 28%と大きな落ち込みになっております。

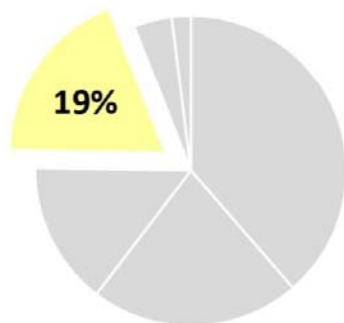
自動車向けは、前四半期に続きまして減少傾向が続いているところで、ここは一番やはり注意すべきところと考えております。構成比も 2 割程度あったところから 15%まで下がってきておりますので、ある意味、回復を待っている段階であります。

分野別売上 コンシューマ・モバイル機器

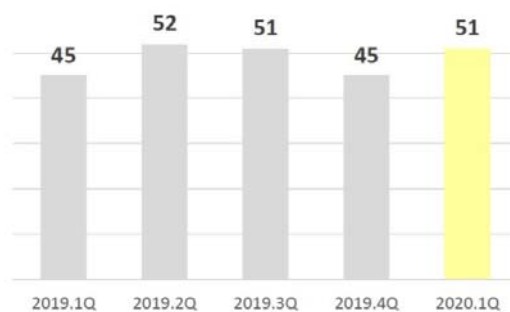
(金額：億円)

	2019年度1Q	2019年度4Q	2020年度1Q	前年同期比	前四半期比
売上高	45	45	51	+13%	+13%

● 構成比



● 四半期別推移



- 感染防止策としてリモートワークが定着、パーソナル・小型コンシューマ機器の需要が一時的に増加した。

18

続きまして 18 ページになります。コンシューマ・モバイル機器になります。

こちらは、対前年同期比でプラス 13%、前四半期比でプラス 13%と、好調でありました。

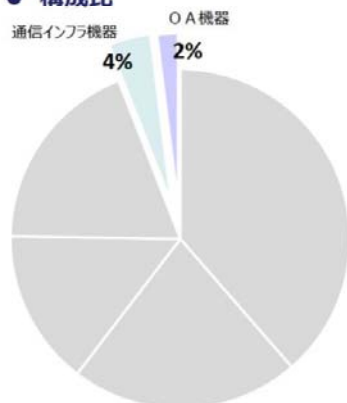
コロナの感染防止策としてリモートワークが定着した結果、パーソナル小型コンシューマ機器、いわゆるガジェット需要がある程度、一時的に増加したという印象であります。今年度は比較的、伸びが堅調なのかなと考えている部門であります。

分野別売上 通信インフラ機器 / OA機器

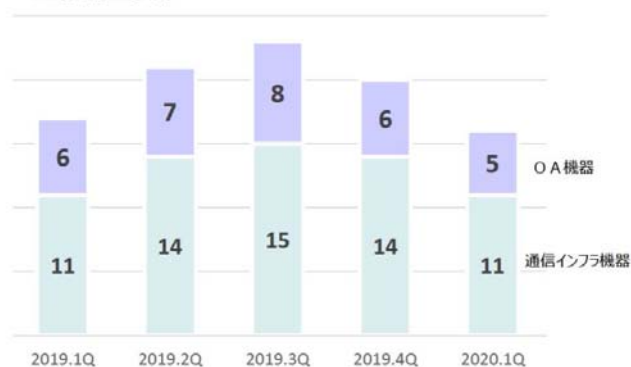
(金額：億円)

	2019年度1Q	2019年度4Q	2020年度1Q	前年同期比	前四半期比
通信インフラ機器	11	14	11	0%	-21%
OA機器	6	6	5	-17%	-17%

● 構成比



● 四半期別推移



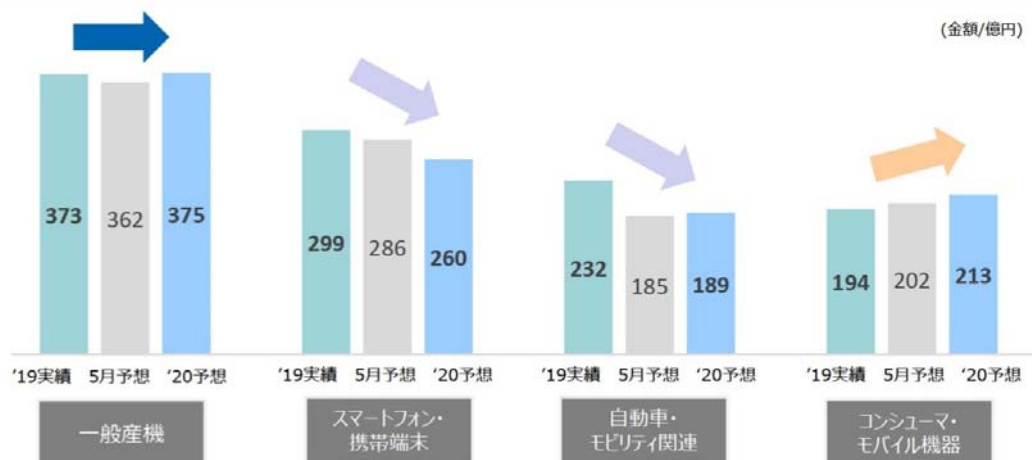
19

続きまして 19 ページになります。こちらは残りの 6%の部分になります。通信インフラ機器と OA 機器、これで分野別は 100%になります。

通信インフラ機器は前年同期比では横ばい、前四半期比でマイナス 21%であります。実はこの通信インフラ機器、後ほどの説明も用意しておりますけれども、マレーシア工場の生産が結構構成比を多く占めております。マレーシア工場の生産制限で、この四半期比ではやや落ちてしまったところがありまして、現状巻き返し中でありまして、そのため、ここは一時的な要因を含んでおります。

OA 機器、こちらはコピー機やプリンターなどになりますけれども、前年同期比、前四半期ともマイナス 17%ですけれども、母体が小さいところですので、金額としては、そんなに大きいものではありません。

分野別 年間売上予想【アップデート】



- 一般産機…回復傾向にはないが、年間微増に上方修正
- スマホ・携帯端末…コロナ禍による消費冷え込みの影響もあり、当初予想を下方修正
- 自動車・モビリティ関連…今期の減少傾向は変わらないが、減少率を若干上方修正
- コンシューマ・モバイル機器…期初は年間微増と予想していたが、10%アップに変更

〔2020/5月予想→年間伸び率予想修正〕

〔-3% → +1%〕

〔-4% → -13%〕

〔-20% → -18%〕

〔+4% → +10%〕

20

それでは続いて 20 ページをご覧ください。分野別年間予想のアップデートになります。

冒頭、年間業績予想は変更はないと申し上げました。分野別に関しましては年初、5月のときは、変更があればまたアップデートしますと申し上げておりましたので、5月時点の変化として、微調整になりますけれどもアップデートさせていただきます。結果としてですけれども、トータルの変更はございません。

まず一般産機向けですが、回復傾向というところではありませんが、年間では横ばい程度から微増。5月のマイナス3%からはプラス1%に変更しております。

スマートフォン向けに関しては、やはりエンドユースの冷え込みの影響があるというところで、5月の時点ではマイナス4%と申し上げていましたけれども、ここはマイナス13%に下方修正しております。

自動車に関しては、減少傾向は年間で見ると変わりはありませんけれども、若干底が緩むかたちになって、マイナス20%からマイナス18%に変更いたしております。

従来、この分野別の伸び率は、産機、スマホ、自動車の3分野でしたけれども、今回からコンシューマ・モバイル機器もカバーすることにいたしました。これによってカバー率が9割を超すようになっております。

コンシューマ関係は、5月の時点では口頭で微増と申し上げておりましたが、1割程度上がる方向に変えております。プラス4%からプラス10%への変更であります。



2021年3月期 業績予想 (連結)

		2020.5 公表値から変更ありません				(金額：億円)			
		2019年度 (2020/3月期) 実績		2020年度 (2021/3月期) 予想		第2四半期累計 対前年実績		通期 対前年実績	
		第2四半期 累計	通期	第2四半期 累計	通期	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高		602.7	1,217.6	500.0	1,150.0	-102.7	-17.0%	-67.6	-5.6%
売上原価率		57.1%	57.8%	60.0%	60.4%				
営業利益		115.3	203.6	85.0	172.0	-30.3	-26.3%	-31.6	-15.5%
(%)		19.1%	16.7%	17.0%	15.0%				
税前利益		120.9	212.1	90.0	180.0	-30.9	-25.5%	-32.1	-15.1%
(%)		20.1%	17.4%	18.0%	15.7%				
当期利益		85.7	153.1	60.0	130.0	-25.7	-30.0%	-23.1	-15.1%
(%)		14.2%	14.4%	12.0%	11.3%				
一株当たり当期利益		—	420.39円	—	358.45円				
一株当たり配当		120円	240円	120円	240円	2019年度 実績	2020年度 1Q実績	2020年度 (2020.5時点)	
連結配当性向		—	57.1%	—	67.0%	1US\$	108.74円	107.62円	107.0円
						1€	120.82円	118.48円	117.0円
						100ウォン	9.21円	8.83円	8.80円

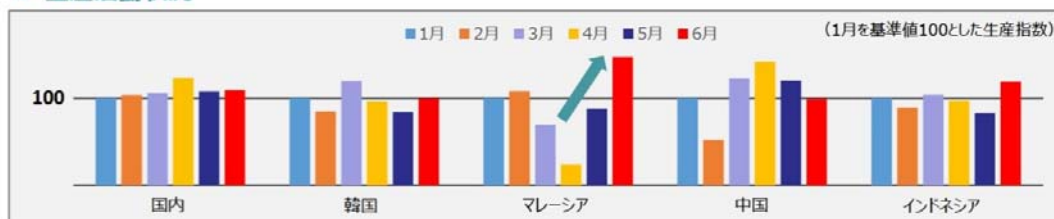
21

続きまして21ページになります。業績予想、先ほどのとおり5月の公表値からの変更はございません。

売上高は上期が500億で、年間1,150億の変更はございません。ほかの利益等も変更ございません。それから配当の年間240円も変更はございません。

新型コロナウイルス感染症に関して (1) 生産・開発に関する取り組みと影響

■ 生産活動状況



- マレーシア活動制限令により、3～4月にマレーシア工場生産休業。5月より一部再開し、6月以降で大幅増産対応中。
- 2月中国、3～4月マレーシアにて生産制限があったものの、その他工場では感染防止策を取りながら稼働を継続。

■ その他の影響

物流制限	航空機減便により、一時的に輸送費値上げの影響あり。
研究開発	約2か月のリモートワーク期間により、開発案件の一部で停滞感も挽回中。
活動制限	お客様・社員の安全確保のため、外部に対する業務活動を制限。

22

続きまして22ページになります。新型コロナウイルス感染症に対する影響について、スライドを2枚ご用意しております。

まず最初は生産状況に関してです。5月のときにマレーシア工場の落ち込みに関して、マレーシア工場が一時休業して、生産が低くなったと申し上げていたんですけども。実績として5月、6月、戻ってきており、情報をアップデートしております。

これは6月だけではありませんで、あともう数カ月高い水準で、生産を挽回していくと考えております。

各国の生産状況を見ますと、2月に中国、それから3月、4月でマレーシアで大きな制限があり、そのほかのところではインドネシアや韓国も一部ありましたけれども、感染防止策をとりながら稼働は継続しておる状況であります。

それから、その他の影響としまして3点挙げております。

物流の制限といいますか、いわゆる海外輸送費の値上げであります。

飛行機が減便したことによりまして、輸送費の値上げを受けております。ここはある意味一時的ではありますけれども、コロナの影響がまだ続いておりますので、まだしばらく続くと思います。ただ一時よりは少しは緩和された状況であります。

それから研究開発に関しましては、先ほどのとおり2カ月のリモート期間が、特に本社側でございました。開発案件の一部で停滞感も実感しておりますけれども、今は鋭意挽回中でございます。



新型コロナウイルス感染症に関して (2) 安全な事業継続のための取り組み

リモートワーク活用	2～5月 各エリアによる感染防止策として、リモートワーク主体の活動に移行。システムのクラウド化は従来より進めており、業務上の停滞を最小限に抑えながら、リモートワークへの切り替えができた。
オンラインツールの活用	取締役会、決算説明会、採用面接などオンライン会議を有効活用。社内ミーティングも3密を避け、電子会議・情報共有システムを活用。社外に対し、技術者向けのオンラインセミナーも実施。
新型コロナウイルス対応ハンドブック配布	コロナウイルスに関する正しい理解と対応策について、3月にハンドブックを作成し、配布。7月には第2版を発行し、引き続きの注意喚起を行った。
日常管理、注意喚起マスク配布	従業員含め関係者の体調管理や注意喚起。各所の消毒液の設置。マスクが入手困難な状況を受け、感染拡大防止の観点から国内・海外社員に使い捨てマスクを配布。

23

続きまして23ページをご覧ください。事業継続のための取り組みとして、枠が四つありますけれども、上の二つと下の二つに分けて説明申し上げます。

まずリモートワークの活用、それからオンラインツールの活用といったリモートワーク主体になって、どれだけ事業継続ができたかというところであります。

当然、例えば対面営業ができないとか、ものづくりの現場で制約が、開発で制約が起きるとか、そういうことはもちろんあるわけでございます。このリモートワークのインフラ自体は、システムのクラウド化を急に始めたわけではありません。そこは従来より私どもは進めてきたところもありまして、ある意味、停滞を最小限に抑えながら、うまく切替えができたかなと思います。

オンラインツールの活用も、実はこういうコロナでリモートワークが進む前は、あまり活発にできていないというか、使いこなしができなかったみたいなイメージがありました。ある意味、最初は必要に迫られて、オンライン会議などを始めていったわけですが、やってみたら結構使えるということで、この説明会もそうですが、採用面接や取締役会などにも活用しております。社内会議の多くでこういったテレコン、ビデオコンが大きく普及したというところがあります。それに加えて社外へのオンラインセミナーなども行うなど、さらに活用を広げているところです。

それからそういう会議だけではなくて、社内 SNS みたいなものも、ビジネス活用を進めるというところもあります。従来は使う人が限られていたところが、誰しもの使うツールとして定着したという効果がございました。

それから下段のほうになりますが、新型コロナウイルス対応ハンドブック配布、それから日常管理、注意喚起、マスク配布といったところです。いわゆる社員含む関係者へのケアをやってきたつもりです。

このハンドブック自体は、いわゆる注意喚起はやるわけですが、そのハンドブック自体をつくって、1人1人全員に配布して、それを手元に持って、いざというときには、それを見ればどう行動すればいいかが分かる。日頃の行動はどうすべきかが分かるみたいな注意喚起をやって、またさらにいわゆる7月に入ってウィズコロナになっても、版を重ねて継続してやっております。

それから4月のマスクの入手困難な時期、一括購入をして、子会社も含めて不足しているところは配布すること、そこを徹底してやりました。消毒液等も含めて、足りないところはない状態で3月、4月、5月、進めてまいりました。ここは現状でも継続してやっております。

<News> 第16回 JPCA賞（アワード） JPCA奨励賞受賞について

- ヒロセ電機の“FX26シリーズ”が、第16回JPCA賞（アワード）にてJPCA（日本電子回路工業会）奨励賞を受賞いたしました。



FX26シリーズは、EV・HEVの基幹製品であるインバータ・モーターコントローラ等パワートレインの内部接続用に開発された、140℃耐熱・高耐振構造基板対基板フローティングコネクタです。

学术界、電子回路業界、専門誌編集者等有識者で構成されるJPCA 賞（アワード）選考委員会により厳正な審査の結果、選出されました。

このたび受賞したFX26 シリーズは、自動車パワートレインの内部接続において、基板対基板での接続に置き換えた際の応力集中を、接続部にフローティング構造を導入することによって克服し、優れた耐振性、耐熱性を特徴にもつ点で、ご評価をいただいております。

24

続きまして 24 ページです。こちら冒頭ご紹介しましたが、JPCA アワードの受賞についてであります。

FX26 という車載向けのフローティング Board to Board コネクタが、日本電子回路工業会というところで奨励賞という賞を受賞いたしました。

専門家の有識者で構成される選考委員会で選出されたというところで、自動車のパワトレの内部接続での Board to Board 接続で、応力集中をフローティング構造を導入して解決いたしました。さらに耐振性、耐熱性を特徴として持つということで、ご評価いただいたものでございます。

分野別売上推移 概数（四半期ベース）

(金額：億円)

	2019年度				2020年度	分野 構成比
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	
一般産機	86	93	91	103	103	39%
スマホ・携帯端末	68	85	75	72	57	22%
自動車・モビリティ関連	56	60	61	54	39	15%
コンシューマ・モバイル端末	45	52	51	45	51	19%
通信インフラ機器	11	14	15	14	11	4%
OA機器	6	7	8	6	5	2%
コネクタ計	272	311	302	293	265	100%
その他	11	9	11	9	9	
合計	282	320	313	302	274	

26

最後は、補足資料です。先ほど申し上げましたとおり、分野別の売上金額です。概数ではありますけれども、実績も金額で推移を出しておりますので、ご参考までにご覧いただきたいと思います。

資料に基づく説明は以上になります。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。

これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい。